

### 3. ローマ世界 f. 迫害から国教化へ

ローマ皇帝のなかには1世紀中期の[1 **ネロ**]帝や3世紀末の[2 **ディオクレティアヌス**]帝などのように[3 **一神**]教であるキリスト教をきらって[4 **迫害**]をくわえるローマ皇帝もいた。しかしキリスト教徒らは迫害を逃れて[5 **カタコンベ**](地下墓所)などで信仰をまもった。

4世紀、キリスト教の広がりの中、ローマの支配者の中には、キリスト教を支配に利用したほうがよいとの考えも生まれ、313年[6 **コンスタンティヌス**]帝は[7 **ミラノ**]勅令でキリスト教を公認するに至った。そして325年には皇帝を議長とし[8 **ニケーア**]公会議を開催、[9 **アタナシウス**]らの説を正統とし[10 **アリウス**]派を異端として教義の統一を図った。[11 **ユリアヌス**]帝が異教復興をはかったがうまくいかず、ついにローマ帝国最後の皇帝[12 **テオドシウス**]帝がキリスト教をローマ帝国の[13 **国教**]とし、他の宗教を厳禁した。

ローマ帝国の分裂後の5世紀初頭には[14 **アウグスティヌス**]があらわれ、「告白録」「神の国」を著し、キリスト教の優位を主張、キリスト教思想とギリシャ哲学を結合させた[15 **教父**]哲学をひらき、中世のキリスト教に大きな影響を与えた。

- ①ローマ帝国の迫害…[16 **ネロ**]帝、ディオクレティアヌス帝  
1世紀中 3世紀末
- ②キリスト教公認→313[17 **ミラノ**]勅令=[18 **コンスタンティヌス**]帝→ローマ帝国全土への拡大  
教義統一・325[19 **ニケーア**]公会議→[20 **アタナシウス**]の説を正統→[21 **三位一体**]説へ  
[22 **アリウス**]派を異端とする→ゲルマン民族に

ミラノの勅令…[23 **313**]年、ローマの[24 **コンスタンティヌス**]帝がだした命令。これまでのローマ帝国の方針を転換し[25 **キリスト教を公認**]した。

ニケーア公会議…325年キリスト教の[26 **教義上の対立**]を解消するため開催された。[27 **コンスタンティヌス**]帝を議長とした。この中でキリストを「神の子」とみなす[28 **アタナシウス**]派が正統とされ、キリストの人間性を主張した[29 **アリウス**]派は異端とされた。

三位一体説…多くのキリスト教が正統とする教義。「[30 **父(神)と子(イエス)と聖霊**]は3つでありながら同一(一体)である」と説く。[31 **アタナシウス**]の理論を基礎に形成されていく。

- ③キリスト教の[32 **国教**]化 ([33 **テオドシウス**]帝)→これまでの宗教などを異端とし禁止  
神の力で帝国の衰退を押しとどめようとする
- ④教父哲学…[34 **アウグスティヌス**](5世紀初)…「告白録」「[35 **神の国**]」  
→キリスト教思想と[36 **ギリシア哲学**](とくに[37 **プラトン**]派)を結合させる
- ⑤5世紀 [38 **エフェソス**]公会議→[39 **ネストリウス**]派を異端とする

ネストリウス派…5世紀に開催された[40 **エフェソス**]公会議で異端とされたキリスト教の一派。三位一体説を否定し、イエスの人性を主張した。その後、[41 **イラン**]方面へ広がり、[42 **唐**]時代の中国にも伝わり、[43 **景**]教とよばれた。その様子は長安の大秦景教流行中国碑に記されている。

### g. ローマの生活と文化

- ①ローマ文化の特徴…44 高度な精神文化はギリシアを模倣、実用的な文化に優れる。

ローマ文化の歴史的意義…45 地中海世界の各端にギリシアローマ文化を広げる

文字=[46 **ローマ**]字、ことば=[47 **ラテン**]語=近代までの教会・学術の公用語  
暦…[48 **ユリウス**]暦(現在の[49 **グレゴリオ**]暦の基礎)

- ②土木・建築技術…凱旋門、[50 **コロッセオ**](円形闘技場)、カラカラ浴場、パンテオン(万神殿)  
道路([51 **アッピア**]街道など)、水道(サイホンの利用や水道橋など)  
特徴…[52 **アーチ**]の多用

- ③ローマ法→53 帝国内のどの民族もがだれでも納得できる普遍的な法律の必要から発展

都市国家ローマでは前5世紀の[54 **十二表**]法以来ローマ市民だけに適用される家族法中心の[55 **市民**]法が発達した。しかしローマ帝国の拡大とともに支配下の諸都市の市民とローマ市民の商取引などを規制するため、他民族の慣習なども吸収しつつ、ローマ支配下の全民族に共通する法としての[56 **万民**]法が発達した。これはしだいに[57 **ストア**]派哲学の[58 **自然**]法の考えを吸収していった。ローマの法律は6世紀、東ローマ帝国の[59 **ユスティニアヌス**]帝のもとでトリボニアヌスらの手により[60 **ローマ法大全**]として編纂された。ローマ法の[61 **個人**]主義的、抽象的な性格や[62 **自然**]法の考えなどは近代法の基礎として大きな役割をもった。

[63 **自然**]法の思想など→6世紀[64 **ローマ法大全**]にまとめられる

ローマ法の影響→「65 ローマは三度世界を征服した」  
ちなみに一度目は[66 **軍事力**]、二度目は[67 **キリスト教**]、三度目がローマ法

- ④哲学→[68 **ストア**]派中心…セネカ、エピクテトス、[69 **マルクスアウレリウス**]帝「自省録」、ら  
([70 ]論) 奴隷出身 五賢帝の一人
- ⑤宗教=現世的色彩の強い[71 **多神教**]、東方的な神秘的宗教([72 **ミトラ**]教など)  
ギリシアの神を多く受け入れる
- ⑥ラテン文学→アウグストゥス期が最盛期、[73 **ギリシア**]文学の模倣

[74 **キケロ**]「国家論」、カエサル「[75 **ガリア戦記**]」、[76 **ヴェルギリウス**]「アエネイス」  
ローマ最大の散文家・雄弁家 ローマ建国の叙事詩

- ⑦歴史・地誌…タキトゥス「[77 **ゲルマニア**]」、リヴィウス「[78 **ローマ史**]」  
ゲルマン人の地誌・風俗を示す ローマ建国以来の歴史  
[79 **プルタルコス**]「対比列伝(英雄伝)」  
ギリシアローマの英雄を比較して叙述

- ⑧自然科学…[80 **ストラボン**]「地理誌」、プリニウス「[81 **博物誌**]」、  
動植物・医学・天文・地理を網羅  
プトレマイオス…[82 **天動**]説を説く